

### 3.3.14 植物

#### (1) 陸生植物

調査対象区域及びその周辺地域における現存植生図は図 3-58 に、巨樹巨木林及び貴重な植物群落は図 3-59 に示すとおりである。

現存植生については、調査対象区域では、残存・植栽樹群を持った公園や緑の多い住宅地などが斑に分布しているものの、大半が工業地帯及び市街地となっている。

「兵庫県版レッドデータブック 2020 (植物・植物群落) (令和 2 年、兵庫県)」によると、調査対象区域には、貴重な植物群落は存在しない。

調査対象区域における巨樹・巨木林の分布数は、表 3-109 に示すとおりである。巨樹 (単木) が尼崎市で 10 本確認されており、巨木林については確認されていない。

調査対象区域には、植物の天然記念物は指定されていない。

表 3-109 調査対象区域における巨樹・巨木林

No	樹種
1	イチョウ
2	クスノキ
3	イチョウ
4	クスノキ
5	ムクノキ
6	クスノキ
7	クスノキ
8	クスノキ
9	クスノキ
10	クスノキ

出典：第 6 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書 (平成 13 年、環境省)



図 3-58 調査対象区域及びその周辺地域における現存植生図



図 3-59 調査対象区域及びその周辺地域における巨樹巨木林及び貴重な植物群落

## (2) 海生植物

### 1) 植物プランクトン

#### ① 調査概要

調査対象区域における植物プランクトン調査概要は表 3-110 に、調査対象区域における植物プランクトン調査位置は図 3-60 に示すとおりである。

調査対象区域では、2 地点で植物プランクトンの現地調査が実施されている。

表 3-110 調査対象区域における植物プランクトン調査概要

項目	内容
調査機関	兵庫県阪神南県民センター尼崎港管理事務所
調査時期	冬季：令和3年2月23日、24日 春季：令和3年5月9日 夏季：令和3年9月16日 秋季：令和3年11月1日
調査地点	2地点 (No. 1、No. 2)
調査方法	採水器を用いて、表層 (0~0.5m) で採集。 採集試料は中性ホルマリンで固定後、分析室で分析 (種の同定・計測・沈殿量)

出典：「尼崎西宮芦屋港港湾計画資料 (その2) 一改訂一」(令和6年11月、尼崎西宮芦屋港港湾管理者 兵庫県)



図 3-60 調査対象区域における植物プランクトン調査地点図

## ② 調査結果

調査対象区域における植物プランクトンの出現状況は、表 3-111 に示すとおりである。

確認種数は、冬季調査では 30～39 種、春季調査では 30～38 種、夏季調査では 39～48 種、秋季調査では 31～45 種であった。

表 3-111 (1) 調査対象区域における植物プランクトン出現状況 (冬季)

区 分		No. 1		No. 2	
冬季	出現種数	39		30	
	出現細胞数	1,155,500		471,800	
	渦鞭毛藻綱	46,780	4.0%	1,600	0.3%
	珪藻綱	1,054,980	91.3%	446,700	94.7%
	ユーグレナ藻綱	9,600	0.8%	0	0.0%
	その他	44,140	3.8%	23,500	5.0%
	主な出現種 と組成比率 (優占率上位5種)	<i>Aulacoseira granulata</i>	82.9%	<i>Thalassiosiraceae</i>	50.2%
		<i>Diploneis</i> sp.	5.0%	<i>Aulacoseira granulata</i>	14.1%
		Microflagellata	2.5%	<i>Navicula</i> spp.	13.1%
		<i>Prorocentrum minimum</i>	1.9%	Pennales	4.9%
Cryptophyceae		1.1%	<i>Dictyosphaerium pulche</i>	2.0%	

注) 出現細胞数は 1L 当たりの細胞数を示す。

出典: 「尼崎西宮芦屋港湾計画資料 (その2) 一改訂一」(令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県)

表 3-111 (2) 調査対象区域における植物プランクトン出現状況 (春季)

区 分		No. 1		No. 2	
春季	出現種数	30		38	
	出現細胞数	19,470,220		4,587,300	
	渦鞭毛藻綱	33,140	0.2%	12,000	0.3%
	珪藻綱	19,245,540	98.8%	2,521,700	55.0%
	ユーグレナ藻綱	129,600	0.7%	1,900,800	41.4%
	その他	61,940	0.3%	152,800	3.3%
	主な出現種 と組成比率 (優占率上位5種)	<i>Cymbella</i> sp.	97.5%	Euglenophyceae	41.4%
		Euglenophyceae	0.7%	Thalassiosiraceae	35.7%
		<i>Aulacoseira granulata</i>	0.5%	<i>Cymbella</i> sp.	12.8%
		<i>Urosolenia longiseta</i>	0.3%	<i>Urosolenia longiseta</i>	2.5%
<i>Pseudo-nitzschia</i> spp.		0.2%	<i>Monoraphidium</i> spp.	1.9%	

注) 出現細胞数は 1L 当たりの細胞数を示す。

出典: 「尼崎西宮芦屋港湾計画資料 (その2) 一改訂一」(令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県)

表 3-111 (3) 調査対象区域における植物プランクトン出現状況 (夏季)

区分		No. 1		No. 2	
夏季	出現種数	39		48	
	出現細胞数	12,801,000		6,923,800	
	渦鞭毛藻綱	50,400	0.4%	9,200	0.1%
	珪藻綱	12,130,200	94.8%	6,696,200	96.7%
	ユグレネ藻綱	442,800	3.5%	35,200	0.5%
	その他	177,600	1.4%	183,200	2.6%
	主な出現種 と組成比率 (優占率上位5種)	<i>Thalassiosira</i> spp.	46.2%	Thalassiosiraceae	52.6%
	<i>Skeletonema</i> spp.	23.5%	<i>Skeletonema</i> spp.	20.7%	
	<i>Pseudo-nitzschia</i> spp.	13.2%	<i>Thalassiosira</i> spp.	12.7%	
	EUGLENOPHYCEAE	3.5%	<i>Pseudo-nitzschia</i> spp.	3.0%	
	<i>Leptocylindrus minimus</i>	3.2%	<i>Chaetoceros</i> spp.	2.0%	

注) 出現細胞数は 1L 当たりの細胞数を示す。

出典: 「尼崎西宮芦屋港湾計画資料 (その2) 一改訂一」(令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県)

表 3-111 (4) 調査対象区域における植物プランクトン出現状況 (秋季)

区分		No. 1		No. 2	
秋季	出現種数	31		45	
	出現細胞数	7,136,000		13,870,800	
	渦鞭毛藻綱	20,000	0.3%	152,800	1.1%
	珪藻綱	6,799,200	95.3%	13,223,600	95.3%
	ユグレネ藻綱	25,600	0.4%	49,600	0.4%
	その他	291,200	4.1%	444,800	3.2%
	主な出現種 と組成比率 (優占率上位5種)	<i>Skeletonema</i> spp.	44.8%	<i>Skeletonema</i> spp.	82.6%
	Thalassiosiraceae	25.8%	Thalassiosiraceae	7.8%	
	<i>Thalassiosira</i> spp.	15.2%	<i>Thalassiosira</i> spp.	2.4%	
	<i>Pseudo-nitzschia</i> spp.	4.4%	CRYPTOPHYCEAE	1.3%	
	<i>Cylindrotheca closterium</i>	1.8%	PRASINOPHYCEAE	0.8%	

注) 出現細胞数は 1L 当たりの細胞数を示す。

出典: 「尼崎西宮芦屋港湾計画資料 (その2) 一改訂一」(令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県)

## 2) 潮間帯付着生物（植物）

### ① 調査概要

調査対象区域における付着生物（植物）調査概要は表 3-112 に、調査対象区域における付着生物（植物）調査位置は図 3-61 に示すとおりである。

調査対象区域では、海域 2 地点において付着生物（植物）が実施されている。

表 3-112 調査対象区域における付着生物（植物）調査概要

項目	内容
調査機関	兵庫県阪神南県民センター尼崎港管理事務所
調査時期	冬季：令和3年2月23日、24日 春季：令和3年5月9日 夏季：令和3年9月16日 秋季：令和3年11月1日
調査地点	2地点（No. 1、No. 2）
調査方法	ベルトトランセクト法による目視観察及び採取（0.5m×0.5m方形枠）

出典：「尼崎西宮芦屋港港湾計画資料（その2）一改訂一」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港港湾管理者 兵庫県）



図 3-61 調査対象区域における付着生物（植物）調査地点図

## ② 調査結果

調査対象区域における付着生物（植物）調査の結果は、表 3-113 に示すとおりである。

確認種数は、冬季調査では4～7種、春季調査では3～8種、夏季調査では1～3種、秋季調査では2～5種であった。

表 3-113(1) 調査対象区域における付着生物（植物）出現状況（冬季）

区分		No. 1		No. 2	
冬季	出現種数	7		4	
	出現湿重量	48.17		0.91	
	アオサ目	0.04	0.1%	+	+
	シオグサ目	0.06	0.1%	0.54	59.3%
	ハネモ目	+	+	0.03	3.3%
	イギス目	48.07	99.8%	0.34	37.4%
	主な出現種 と組成比率 (優占率0.1%以上 の上の上位5種)	シヨウジョウケノリ	90.5%	シオグサ属の一種	52.7%
	ケイギス	4.9%	フサカサネグサ	37.4%	
	ホソガサネ	4.5%	ワタシオグサ	6.6%	
	シオグサ属の一種	0.1%	ハネモ	3.3%	
	ボウアオノリ	0.1%			

注1) 出現種数は0.25m<sup>2</sup>当たりの個体数を示す。

注2) 出現湿重量の左の値は湿重量を、右の値はその割合を示す。

注3) -は出現しなかったこと、+は湿重量0.01g未滿及び0.1%未滿を示す。

出典：「尼崎西宮芦屋港湾計画資料（その2）一改訂一」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県）

表 3-113(2) 調査対象区域における付着生物（植物）出現状況（春季）

区分		No. 1		No. 2	
春季	出現種数	8		3	
	出現湿重量	8.23		0.14	
	アオサ目	+	+	0.01	7.1%
	シオグサ目	-	-	0.11	78.6%
	ハネモ目	0.65	7.9%	-	-
	イギス目	7.58	92.1%	0.02	14.3%
	主な出現種 と組成比率 (優占率0.1%以上 の上の上位5種)	シヨウジョウケノリ	91.3%	ワタシオグサ	78.6%
	ハネモ属の一種	7.9%	ケイギス	14.3%	
	イギス属の一種	0.5%	ボウアオノリ	7.1%	
	エナシダジア	0.4%			

注1) 出現種数は0.25m<sup>2</sup>当たりの個体数を示す。

注2) 出現湿重量の左の値は湿重量を、右の値はその割合を示す。

注3) -は出現しなかったこと、+は湿重量0.01g未滿及び0.1%未滿を示す。

出典：「尼崎西宮芦屋港湾計画資料（その2）一改訂一」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県）

表 3-113(3) 調査対象区域における付着生物（植物）出現状況（夏季）

区 分		No. 1		No. 2	
夏季	出現種数	3		1	
	出現湿重量	0.22		0.04	
	アオサ目	-	-	-	-
	シオグサ目	0.22	100.0%	0.04	100.0%
	ハネモ目	-	-	-	-
	イギス目	-	-	-	-
主な出現種と組成比率 (優占率0.1%以上の上位5種)		シオグサ属の一種	100.0%	シオグサ属の一種	100.0%

注1) 出現種数は0.25m<sup>3</sup>当たりの個体数を示す。

注2) 出現湿重量の左の値は湿重量を、右の値はその割合を示す。

注3) -は出現しなかったこと、+は湿重量0.01g未満及び0.1%未満を示す。

出典：「尼崎西宮芦屋港湾計画資料（その2）—改訂—」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県）

表 3-113(4) 調査対象区域における付着生物（植物）出現状況（秋季）

区 分		No. 1		No. 2	
秋季	出現種数	5		2	
	出現湿重量	0.18		0.23	
	アオサ目	-	-	-	-
	シオグサ目	0.13	72.2%	0.23	100.0%
	ハネモ目	+	+	+	+
	イギス目	0.05	60.0%	-	-
主な出現種と組成比率 (優占率0.1%以上の上位5種)		シオグサ属の一種	72.2%	シオグサ属の一種	100.0%
		イトグサ属の一種	11.1%		
		ハネグサ	11.1%		
		キヌイトフタツガサネ	5.6%		

注1) 出現種数は0.25m<sup>3</sup>当たりの個体数を示す。

注2) 出現湿重量の左の値は湿重量を、右の値はその割合を示す。

注3) -は出現しなかったこと、+は湿重量0.01g未満及び0.1%未満を示す。

出典：「尼崎西宮芦屋港湾計画資料（その2）—改訂—」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県）

### 3.3.15 動物

#### (1) 陸生動物

##### 1) 哺乳類

調査対象区域及びその周辺地域における哺乳類の確認種は表 3-114 に、調査対象区域及びその周辺地域における哺乳類の分布状況は図 3-62 に示すとおりである。

「第5回自然環境保全基礎調査（生物多様性調査・種の多様性調査第1期）」（平成9年度～10年度、環境庁）によると、調査対象区域で哺乳類の確認はなかった。

また、調査対象種を中・大型哺乳類 8 種（ニホンザル、シカ、ツキノワグマ、ヒグマ、イノシシ、キツネ、タヌキ、アナグマ）とカモシカ、ジャワマングースを対象にした「第6回自然環境保全基礎調査（生物多様性調査・種の多様性調査第2期）」（平成16年度～17年度、環境庁）によると、調査対象区域において、タヌキの分布が確認されている。

表 3-114 調査対象区域及びその周辺地域における哺乳類の確認種一覧  
(第6回自然環境保全基礎調査)

No.	確認種	種数
1	タヌキ	1

出典：「第6回自然環境保全基礎調査（生物多様性調査・種の多様性調査第2期）」  
(平成16年度～平成17年度、環境庁)



図 3-62 調査対象区域における哺乳類の分布状況（第6回調査）

## 2) 鳥類

調査対象区域及びその周辺地域における鳥類の重要種確認一覧は、表 3-115 に示すとおりである。

調査対象区域及びその周辺地域では、6 目 11 科 24 種の鳥類の重要種が確認されている。このうち、環境省レッドリスト（令和 2 年 3 月、環境省）（以下、環境省 RL）では 8 種、兵庫県版レッドリスト（令和 7 年 3 月、兵庫県）（以下、兵庫県 RL）では 24 種が指定されている。

表 3-115 調査対象区域及びその周辺地域における重要種確認一覧（鳥類）

No.	目名	科名	和名	重要度カテゴリー		
				環境省RL	兵庫県版RL	
1	カモ	カモ	マガン	NT	C	
2			トモエガモ	VU	C	
3			アメリカカヒドリ	—	C	
4			ピロードキンクロ	—	B	
5			クロガモ	—	C	
6	チドリ	チドリ	ダイゼン	—	C	
7			イカルチドリ	—	B	
8			シロチドリ	VU	A	
9		シギ	ハマシギ	NT	C	
10			タシギ	—	C	
11			イソシギ	—	C	
12			タカブシギ	VU	B	
13			カモメ科	コアジサシ	VU	A
14		ペリカン	サギ	ササゴイ	—	C
15				チュウサギ	NT	C
16		タカ	ミサゴ	NT	B	
17			タカ	ノスリ	—	B
18	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	—	要注目	
19	スズメ	ヒタキ	コサメビタキ	—	C	
20			オオルリ	—	要注目	
21			キビタキ	—	要注目	
22			ルリビタキ	—	A	
23		カワガラス	カワガラス	—	C	
24		ホオジロ	アオジ	—	A	
6目11科24種				8種	24種	

注1) 環境省 RL の重要度カテゴリー区分は、次のとおりである。

絶滅 (EX)：既に絶滅したと考えられる種

野生絶滅 (EW)：飼育、栽培下でのみ存続している種

絶滅危惧 I 類 (CR+EN)：絶滅の危機に瀕している種

絶滅危惧 IA 類 (CR)：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧 IB 類 (EN)：IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

絶滅危惧 II 類 (VU)：絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧 (NT)：存続基盤が脆弱な種

情報不足 (DD)：評価するだけの情報が不足している種

絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)：地域的に孤立している地域個体群で、絶滅のおそれが高いもの

注2) 兵庫県 RL の重要度カテゴリー区分は、次のとおりである。

絶滅：兵庫県内での確認記録、標本があるなど、かつては生息していたと考えられるが、現在は野生下ではみられなくなり、生息の可能性がないと考えられる種。

A ランク：兵庫県内において絶滅の危機に瀕している種など、緊急の保全対策、厳重な保全対策の必要な種

B ランク：兵庫県内において絶滅の危機が増大している種など、極力生息環境などの保全が必要な種

C ランク：兵庫県内において存続基盤が脆弱な種

要注目：最近減少の著しい種、優れた自然環境の指標となる種や分布や行動に変化があり動向が注目される種などの貴重種に準ずる種

要調査：兵庫県内での生息の実態がほとんどわからないことなどにより、現在の知見では貴重性の評価ができないが、今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種

出典：尼崎西宮芦屋港港湾計画資料（その2）一改訂一（令和 6 年 11 月、尼崎西宮芦屋港港湾管理者 兵庫県）

「令和 6 年度尼崎の森中央緑地 森の育成活動支援業務報告書」（令和 7 年 3 月、株式会社里と水辺研究所）

「環境省レッドリスト 2020」（令和 2 年 3 月、環境省）

「兵庫県版レッドリスト 2025（鳥類）」（令和 7 年 3 月、兵庫県）

### 3) 昆虫類

調査対象区域及びその周辺地域における昆虫類の重要種確認一覧は表 3-116 に示すとおりである。

調査対象区域及びその周辺地域では、4 目 21 科 56 種の昆虫類が確認されている。このうち環境省レッドリストでは 24 種、兵庫県版レッドリストでは 56 種が指定されている。

表 3-116(1) 調査対象区域及びその周辺地域における重要種確認一覧（昆虫類）

No.	目名	科名	和名	重要度カテゴリー		
				環境省RL	兵庫県版RL	
1	トンボ	イトトンボ	ベニイトトンボ	NT	A	
2			ムスジイトトンボ	—	要注目	
3		ヤンマ	オオイトトンボ	—	B	
4			ルリボシヤンマ	—	B	
5			カトリヤンマ	—	C	
6		ムカシヤンマ	サラサヤンマ	—	B	
7			ムカシヤンマ	—	B	
8		エゾトンボ	ハネビロエゾトンボ	VU	A	
9			タカネトンボ	—	要調査	
10			エゾトンボ	—	B	
11		トンボ	ヨツボシトンボ	—	C	
12			ハッチョウトンボ	—	B	
13			ミヤマアカネ	—	要注目	
14	キンカメムシ		ニシキキンカメムシ	—	要注目	
15	チョウ	セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ	NT	B	
16			ミヤマチャバネセセリ	—	C	
17			ヘリグロチャバネセセリ	—	B	
18		シジミチョウ	ウラゴマダラシジミ	—	要注目	
19			ウラナミアカシジミ	—	要注目	
20			ミドリシジミ	—	要注目	
21			クロシジミ	EN	A	
22			キマダラルリツバメ	NT	B	
23			ゴイシシジミ	—	B	
24			クロツバメシジミ中国地方・四国・九州内陸亜種	NT	B	
25			ウラキシジミ	—	要注目	
26			シルビアシジミ	EN	C	
27			タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン	VU	B
28		ヒメヒカゲ本州西部亜種		EN	A	
29		オオウラギンヒョウモン		CR	絶滅	
30		オオムラサキ		NT	C	
31		ウラナミジャノメ本土亜種		VU	B	
32		シロチョウ	ツマグロキチョウ	EN	要注目	
33			ヤマトスジグロシロチョウ本州中・南部亜種	—	要注目	
34		ヤガ	クロシオキシタバ	—	要注目	
35			カバフキシタバ	—	C	
36			ゴマダラキリガ	—	C	
37		コウチュウ	オサムシ	セアカオサムシ	NT	要調査
38				オオヒョウタンゴミムシ	NT	A
39			ハンミョウ	ヨドシロヘリハンミョウ	VU	A
40				カワラハンミョウ	EN	絶滅
41			ゲンゴロウ	ゲンゴロウ	VU	A
42	コガタノゲンゴロウ			VU	A	
43	マルガタゲンゴロウ			VU	C	
44	ヒメシマチビゲンゴロウ			—	要調査	
45	ミズスマシ			VU	B	
46	コガシラミズムシ		キイロコガシラミズムシ	VU	C	
47			マダラコガシラミズムシ	VU	C	

表 3-116(2) 調査対象区域及びその周辺地域における重要種確認一覧（昆虫類）

No.	日名	科名	和名	重要度カテゴリー	
				環境省RL	兵庫県版RL
48	コウチュウ	コガネムシ	ヒメサクラコガネ	—	要調査
49			ヤマトアオドウガネ	—	C
50			アカマダラハナムグリ	DD	A
51			シロスジコガネ	—	B
52			ヒゲコガネ	—	B
53			タママシ	アカヘリミドリタママシ	—
54		コメツキムシ	ツシマヒメサビキコリ	—	要調査
55		ホタル	ヒメボタル	—	要注目
56		ハムシ	カツラネクイハムシ	—	B
4日21科56種				24種	56種

注1) 環境省 RL の重要度カテゴリー区分は、次のとおりである。

- 絶滅 (EX) : 既に絶滅したと考えられる種
- 野生絶滅 (EW) : 飼育、栽培下でのみ存続している種
- 絶滅危惧 I 類 (CR+EX) : 絶滅の危機に瀕している種
- 絶滅危惧 IA 類 (CR) : ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
- 絶滅危惧 IB 類 (EN) : IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
- 絶滅危惧 II 類 (VU) : 絶滅の危険が増大している種
- 準絶滅危惧 (NT) : 存続基盤が脆弱な種
- 情報不足 (DD) : 評価するだけの情報が不足している種
- 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) : 地域的に孤立している地域個体群で、絶滅のおそれが高いもの

注2) 兵庫県 RL の重要度カテゴリー区分は、次のとおりである。

- 絶滅 : 兵庫県内での確認記録、標本があるなど、かつては生息していたと考えられるが、現在は野生下ではみられなくなり、生息の可能性がないと考えられる種。
- A ランク : 兵庫県内において絶滅の危機に瀕している種など、緊急の保全対策、厳重な保全対策の必要な種
- B ランク : 兵庫県内において絶滅の危機が増大している種など、極力生息環境などの保全が必要な種
- C ランク : 兵庫県内において存続基盤が脆弱な種
- 要注目 : 最近減少の著しい種、優れた自然環境の指標となる種や分布や行動に変化があり動向が注目される種などの貴重種に準ずる種
- 要調査 : 兵庫県内での生息の実態がほとんどわからないことなどにより、現在の知見では貴重性の評価ができないが、今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種

出典 : 尼崎西宮芦屋港湾計画資料 (その2) 一改訂一 (令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県)

「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月、環境省)

「兵庫県版レッドリスト2022 (昆虫類)」(令和4年3月、兵庫県)

#### 4) 両生類

調査対象区域及びその周辺地域における両生類の重要種確認種一覧は、表 3-117 に示すとおりである。

調査対象区域及びその周辺地域では、2目5科7種の両生類の重要種が確認されている。このうち、環境省レッドリストでは3種、兵庫県版レッドリストでは7種が指定されている。

表 3-117 調査対象区域及びその周辺地域における重要種確認一覧（両生類）

No.	目名	科名	和名	重要度カテゴリー	
				環境省RL	兵庫県版RL
1	有尾目	サンショウウオ	セトウチサンショウウオ	VU	B
2		オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	VU	B
3	無尾目	ヒキガエル	ニホンヒキガエル	-	C
4		アカガエル	タゴガエル	-	C
5			ナゴヤダルマガエル	EN	A
6		アオガエル	モリアオガエル	-	B
7			カジカガエル	-	C
2目5科7種				3種	7種

注1) 環境省 RL の重要度カテゴリー区分は、次のとおりである。

- 絶滅 (EX) : 既に絶滅したと考えられる種
- 野生絶滅 (EW) : 飼育、栽培下でのみ存続している種
- 絶滅危惧 I 類 (CR+EN) : 絶滅の危機に瀕している種
- 絶滅危惧 IA 類 (CR) : ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
- 絶滅危惧 IB 類 (EN) : IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
- 絶滅危惧 II 類 (VU) : 絶滅の危険が増大している種
- 準絶滅危惧 (NT) : 存続基盤が脆弱な種
- 情報不足 (DD) : 評価するだけの情報が不足している種
- 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) : 地域的に孤立している地域個体群で、絶滅のおそれが高いもの

注2) 兵庫県 RL の重要度カテゴリー区分は、次のとおりである。

- 絶滅 : 兵庫県内での確認記録、標本があるなど、かつては生息していたと考えられるが、現在は野生下ではみられなくなり、生息の可能性がないと考えられる種。
- A ランク : 兵庫県内において絶滅の危機に瀕している種など、緊急の保全対策、厳重な保全対策の必要な種
- B ランク : 兵庫県内において絶滅の危機が増大している種など、極力生息環境などの保全が必要な種
- C ランク : 兵庫県内において存続基盤が脆弱な種
- 要注目 : 最近減少の著しい種、優れた自然環境の指標となる種や分布や行動に変化があり動向が注目される種などの貴重種に準ずる種
- 要調査 : 兵庫県内での生息の実態がほとんどわからないことなどにより、現在の知見では貴重性の評価ができないが、今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種

出典 : 尼崎西宮芦屋港湾計画資料 (その2) 一改訂一 (令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県)

「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月、環境省)

「兵庫県版レッドリスト2017 (哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類)」(平成29年3月、兵庫県)

## 5) 爬虫類

調査対象区域及びその周辺地域における爬虫類の重要種確認一覧は、表 3-118 に示すとおりである。

調査対象区域及びその周辺地域では、2目5科5種の爬虫類の重要種が確認されている。このうち、環境省レッドリストでは3種、兵庫県版レッドリストでは5種が指定されている。

表 3-118 尼崎西宮芦屋港及びその周辺地域における重要種確認一覧（爬虫類）

No.	目名	科名	和名	重要度カテゴリー	
				環境省RL	兵庫県版RL
1	カメ	ウミガメ	アカウミガメ	EN	A
2		イシガメ	ニホンイシガメ	NT	C
3		スッポン	ニホンスッポン	DD	要調査
4	有隣目	ヤモリ	ニホンヤモリ	-	要注目
5		ナミヘビ	シロマダラ	-	C
2目5科5種				3種	5種

注 1) 環境省 RL の重要度カテゴリー区分は、次のとおりである。

- 絶滅 (EX)：既に絶滅したと考えられる種
- 野生絶滅 (EW)：飼育、栽培下でのみ存続している種
- 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)：絶滅の危機に瀕している種
- 絶滅危惧 IA 類 (CR)：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
- 絶滅危惧 IB 類 (EN)：IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
- 絶滅危惧 II 類 (VU)：絶滅の危険が増大している種
- 準絶滅危惧 (NT)：存続基盤が脆弱な種
- 情報不足 (DD)：評価するだけの情報が不足している種
- 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)：地域的に孤立している地域個体群で、絶滅のおそれが高いもの

注 2) 兵庫県 RL の重要度カテゴリー区分は、次のとおりである。

- 絶滅：兵庫県内での確認記録、標本があるなど、かつては生息していたと考えられるが、現在は野生下ではみられなくなり、生息の可能性がないと考えられる種。
- A ランク：兵庫県内において絶滅の危機に瀕している種など、緊急の保全対策、厳重な保全対策の必要な種
- B ランク：兵庫県内において絶滅の危険が増大している種など、極力生息環境などの保全が必要な種
- C ランク：兵庫県内において存続基盤が脆弱な種
- 要注目：最近減少の著しい種、優れた自然環境の指標となる種や分布や行動に変化があり動向が注目される種などの貴重種に準ずる種
- 要調査：兵庫県内での生息の実態がほとんどわからないことなどにより、現在の知見では貴重性の評価ができないが、今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種

出典：「尼崎西宮芦屋港港湾計画資料（その2）一改訂一」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港港湾管理者 兵庫県）

「環境省レッドリスト2020」（令和2年3月、環境省）

「兵庫県版レッドリスト2017（哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類）」（平成29年3月、兵庫県）

## (2) 海生動物

### 1) 動物プランクトン

#### ① 調査概要

調査対象区域における動物プランクトン調査概要は表 3-119 に、調査対象区域の植物プランクトン調査位置は図 3-63 に示すとおりである。

調査対象区域では、海域 2 地点で動物プランクトンの現地調査が実施されている。

表 3-119 調査対象区域における動物プランクトン調査概要

項目	内容
調査機関	兵庫県阪神南県民センター尼崎港管理事務所
調査時期	冬季：令和3年2月23日、24日 春季：令和3年5月9日 夏季：令和3年9月16日 秋季：令和3年11月1日
調査地点	2地点 (No. 1、No. 2)
調査方法	プランクトンネットを用いた鉛直曳き (海底上1mから海面まで)

出典：「尼崎西宮芦屋港湾計画資料（その2）—改訂—」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県）



図 3-63 調査対象区域における動物プランクトン調査地点図

## ② 調査結果

調査対象区域における動物プランクトン調査結果は、表 3-120 に示すとおりである。

確認種数は、冬季調査では 19～20 種、春季調査では 20～21 種、夏季調査では 19～25 種、秋季調査では 17～20 種であった。

表 3-120(1) 動物プランクトン出現状況（冬季）

区分		No. 1		No. 2	
冬季	出現種数	19		20	
	出現個体数	442,670		265,372	
	原生動物	284,445	64.3%	194,057	73.1%
	軟体動物	3,556	0.8%	2,057	0.8%
	環形動物	5,333	1.2%	2,057	0.8%
	節足動物	136,891	30.9%	60,344	22.7%
	脊索動物	8,889	2.0%	4,800	1.8%
	その他	3,556	0.8%	2,057	0.8%
	主な出現種 と組成比率 (優占率上位5種)	<i>Favella taraikaensis</i>	63.5%	<i>Favella taraikaensis</i>	72.9%
		COPEPODA (nauplius)	11.2%	COPEPODA (nauplius)	8.8%
<i>Oithona</i> sp. (copepodite)		5.6%	<i>Acartia</i> sp. (copepodite)	3.4%	
<i>Acartia</i> sp. (copepodite)		4.8%	<i>Oithona</i> sp. (copepodite)	3.1%	
<i>Centropages</i> sp. (copepodite)		3.6%	<i>Centropages</i> sp. (copepodite)	1.6%	

注) 出現個体数は 1m<sup>3</sup> 当たりの個体数を示す。

出典：「尼崎西宮芦屋港湾計画資料（その2）—改訂—」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県）

表 3-120(2) 動物プランクトン出現状況（春季）

区分		No. 1		No. 2	
春季	出現種数	20		21	
	出現個体数	115,667		94,224	
	原生動物	59,000	51.0%	52,312	55.5%
	軟体動物	2,667	2.3%	3,536	3.8%
	環形動物	2,833	2.4%	6,448	6.8%
	節足動物	42,166	36.5%	24,856	26.4%
	脊索動物	8,834	7.6%	6,864	7.3%
	その他	167	0.1%	208	0.2%
	主な出現種 と組成比率 (優占率上位5種)	<i>Codonellopsis nipponica</i>	41.6%	<i>Codonellopsis nipponica</i>	43.9%
		<i>Podon polyphemoides</i>	17.1%	<i>Favella taraikaensis</i>	11.6%
<i>Favella taraikaensis</i>		9.4%	COPEPODA (nauplius)	9.1%	
COPEPODA (nauplius)		6.6%	POLYCHAETA (Nectochaeta)	6.8%	
<i>Oithona</i> sp. (copepodite)		6.1%	<i>Podon polyphemoides</i>	6.3%	

注) 出現個体数は 1m<sup>3</sup> 当たりの個体数を示す。

出典：「尼崎西宮芦屋港湾計画資料（その2）—改訂—」（令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県）

表 3-120(3) 動物プランクトン出現状況 (夏季)

区分		No. 1		No. 2	
夏季	出現種数	19		25	
	出現個体数	102,429		47,734	
	原生動物	-	-	-	-
	軟体動物	2,143	2.1%	2,667	5.6%
	環形動物	3,571	3.5%	8,667	18.2%
	節足動物	93,714	91.5%	34,134	71.5%
	脊索動物	1,857	1.8%	799	1.7%
	その他	1,144	1.1%	1,467	3.1%
	主な出現種 と組成比率 (優占率上位5種)	<i>Oithona davisae</i>	39.7%	<i>Oithona davisae</i>	30.2%
		<i>Oithona</i> sp. (copepodite)	31.5%	POLYCHAETA (larva)	18.2%
COPEPODA (nauplius)		6.6%	<i>Oithona</i> sp. (copepodite)	17.0%	
POLYCHAETA (larva)		3.5%	COPEPODA (nauplius)	5.6%	
<i>Acartia</i> sp. (copepodite)		3.1%	BIVALVIA (umbo)	5.6%	

注) 出現個体数は1m<sup>3</sup>当たりの個体数を示す。

出典:「尼崎西宮芦屋港湾計画資料(その2)一改訂一」(令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県)

表 3-120(4) 動物プランクトン出現状況 (秋季)

区分		No. 1		No. 2	
秋季	出現種数	17		20	
	出現個体数	103,125		151,600	
	原生動物	-	-	-	-
	軟体動物	250	0.2%	3,600	2.4%
	環形動物	4,500	4.4%	3,000	2.0%
	節足動物	93,750	90.9%	139,000	91.7%
	脊索動物	4,375	4.2%	1,400	0.9%
	その他	250	0.2%	4,600	3.0%
	主な出現種 と組成比率 (優占率上位5種)	<i>Oithona</i> sp. (copepodite)	54.1%	<i>Oithona</i> sp. (copepodite)	48.0%
		<i>Paracalanus crassirostris</i>	11.4%	<i>Oithona brevicornis</i>	23.0%
COPEPODA (nauplius)		10.7%	Paracalanidae (copepodite)	11.5%	
<i>Oithona brevicornis</i>		9.7%	COPEPODA (nauplius)	4.7%	
POLYCHAETA (larva)		4.4%			

注) 出現個体数は1m<sup>3</sup>当たりの個体数を示す。

出典:「尼崎西宮芦屋港湾計画資料(その2)一改訂一」(令和6年11月、尼崎西宮芦屋港湾管理者 兵庫県)